

「国家規模ヘルスデータ活用に向けたデータポリシーに関する国際シンポジウム」 開催のお知らせ

国民の健康維持・促進のため、効果的な医療を効率よく提供することは国家共通の課題です。北欧やアジアの先進的な国々においては、国家規模での医療データの利活用に向けた取り組みが進んでいます。日本においても、国民皆保険に基づき、NDB（National Database）等の国家規模のデータベースが整備され、その活用の検討がなされています。しかし、デジタル化の立ち遅れや個人データ保護の問題等、解決すべき問題が山積しています。このシンポジウムでは、iGHPの共同研究パートナーである台湾大学およびタイの Prince of Songkla University の教授を迎え、国家共通の使命である個人データ保護に留意しつつ、有益な情報の宝庫である国民データを活用した政策研究のあり方について共に考えます。国境を越えた人類の健康を目的とした共同研究の可能性を広げるため、各国の国民大規模データを共有することはできるのか。また、我々はそのとき何に留意すべきなのか。グローバル社会における医療保健、法と倫理という観点から次世代におけるデータ活用の道筋を見出します。

- 日時 2019年12月6日（金）17:30-19:30（受付開始は17:00）
- 会場 国立国際医療研究センター・研修センター棟1階 グローバルヘルス政策研究センター（iGHP）
〒162-865 東京都新宿区戸山1-21-1
- アクセス <http://www.ncgm.go.jp/access/>
- タイトル 「国家規模ヘルスデータ活用に向けたデータポリシーに関する国際シンポジウム」
- 言語 英語（日本語通訳なし）
- 参加費 無料・事前登録制
- 対象者 国民保健データを活用した保健政策、国民データ管理、個人情報保護に関する法と倫理に関心のある研究者、行政官、団体職員等50名
- 主催 国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター
- 共催 Innovation and Policy Center for Population Health and Sustainable Environment (Population Health Research Center,

PHRC), College of Public Health, National Taiwan University,
Taiwan

National Health Security Office (NHSO), Thailand

Epidemiology Unit, Faculty of Medicine, Prince of Songkla
University, Thailand

プログラム内容 (敬称略)

- 17:30 開会の辞：宮田裕章（グローバルヘルス政策研究センター
(iGHP) グローバルヘルスシステム・イノベーション研究科長)
- 17:35-19:05 講演
- Raymond N. Kuo（国立台湾大学 公共衛生学院 健康政策興管理研究所 准教授）「台湾における保健政策策定のための国民データの活用」
 - Tippawan Liabsuetrakul（Prince of Songkla University 教授）「タイの保健医療政策策定のための National Health Security Office のレセプトデータ活用」
 - 藤田 卓仙（一般社団法人 世界経済フォーラム第四次産業革命日本センター ヘルスケア・データ政策プロジェクト長）「日本の保健政策策定における国民健康保険レセプトデータの活用」
 - James Yuan（国立台湾大学公衆衛生大学院労働医学・産業衛生研究所 助教）「公共データ活用における法と倫理：保健データ利用者の視点から」
- 19:10-19:30 パネルディスカッション&質疑応答
モデレーター：宮田裕章